

プロフィール

神奈川県出身。上智大学総合人間科学部教育学科にて、教育開発を専攻し、在学中にカンボジアの初等教育の内部効率性に関する現地調査に参加。学部卒業後、神戸大学大学院国際協力研究科に進学し、教育経済学を専攻。ラオスにて教育と労働市場の関係性に関する定量的な調査を行った。修士号取得後は、世界銀行で教育コンサルタントとしてバングラディシュの職業教育訓練プロジェクトに従事。その後、帝京大学に助教として勤務した。大学での教育活動に大きな意義を感じたものの、発展途上国の困難な環境下に置かれた子どもたちへの教育支援に直接的な貢献をしたいと考え、プライマリー・コースに参加。海外派遣では、UNICEF のエジプト事務所において、エジプト内の難民、移民、ホスト・コミュニティの子どもたちへの教育支援を担当。本事業での派遣期間終了後も、契約延長により、引き続き同事務所に勤務。

1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

日本で大学教員として国際教育開発協力に関わる業務を行なっていましたが、困難な状況に置かれた最も脆弱な子ども達への教育支援に直接的な貢献をするために、実際に発展途上国に赴任してキャリアを構築したいと考え、そのために必要な研修の機会を得られる場として、本事業に応募しました。

学生の頃から、国際教育開発協力分野の専門家として、平和構築や貧困削減などの国際的課題解決に従事したいと考えてきました。特に、中学時代、故・緒方貞子先生とお話しする機会に恵まれた事が大きな契機となったと思います。貧困削減にどのように貢献出来るかとお尋ねしたところ、専門的な知識とスキルを身につけ、国際協力分野の専門家として貢献するのが良いのではないかと助言をいただき、大学と大学院で教育開発を専攻しました。

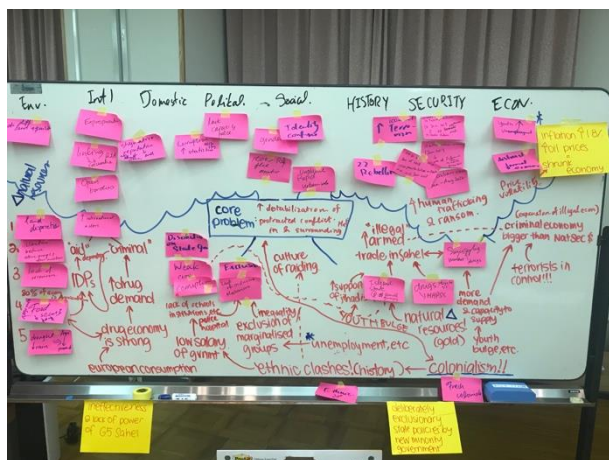
大学院卒業後は、バングラディシュにある世界銀行ダッカ事務所でコンサルタントとして勤務しました。職業教育訓練プロジェクトに配属され、職業教育訓練校における教員研修と教育の質に関する調査を実施しました。調査を実施する過程で、カウンターパートである政府との調整や、フィールド訪問、データ収集などを行いました。その後、帝京大学で教員として勤務し、専門科目の講義、留学プログラムなどを担当しました。大学での教育活動にも大きな意義を感じていましたが、発展途上国の現場で経験を積むことにも関心が高まっていた折に、本事業プライマリー・コースの存在を知り、応募しました。

2. 国内研修に参加した感想は？

5 週間にわたる合宿形式の国内研修は、想像以上に素晴らしい経験となりました。プライマリー・コースを通し、人道支援・開発協力業界でキャリアを築いていくにあたって非常に重要となる人的ネットワークと、現場で生きる包括的な知識やスキルを得ることが出来たことが最大の収穫です。

プライマリー・コースの国内研修では、多様なバックグラウンドを持ちながらも平和構築という共通のゴール掲げる 15 名の日本人研修員と 10 名の外国人研修員、計 25 人の仲間が参加していました。平和構築や開発支援分野の第一線で活躍してきた講師陣から、人道支援・開発協力分野の現場で生きる知識やスキルを学び、まるで大学院に戻ったような、知的好奇心を刺激される熱狂的な 5 週間を過ごしました。様々な分野での経験を豊富に持つ講師陣や仲間との実習を通し、これまで持ちえなかった多様な角度から問題を捉えることが出来る視点を養うことが出来ました。

このプライマリー・コースで出会った仲間は、今後国連機関でキャリアを構築して行く上で、いわゆる“同期”のような存在となり、それぞれ異なる国や地域に配属された今でも頻りに連絡を取り合い、お互いに支え合える得難い存在となりました。



3. 海外派遣での活動について教えてください。

2019年5月に、UNICEF エジプト事務所の教育担当官ポストに国連ボランティア（UNV）として派遣され、教育セクションの緊急教育支援チームに所属し、エジプト内の難民、移民、ホスト・コミュニティの子どもたちへの教育支援プログラムを担当しました。UNV の任期は2020年5月で満了となりましたが、引き続き UNV として契約を更新してもらうことが出来ました。

現在エジプト国内には、約 25 万人の難民及び難民申請者が暮らしています。そのうち約 50%がシリアからの難民で、他にもサブサハラアフリカ、イラク、イエメンを初めとする合計 58 か国からの難民、移民を受け入れています。また難民のうち 40%近くが 17 歳未満であり、教育サービスを必要とする若年層の難民人口を多数抱えています。私が担当するプロジェクトでは、難民や移民、そしてホスト・コミュニティであるエジプト人の子どもたちが安全で質の高い教育へアクセス出来るよう、教育省や NGO と協力し、システムレベルでの公教育の強化と、コミュニティレベルでの難民・移民・ホスト・コミュニティの子どもたちへの支援を行なっています。主な支援内容としては、就学前から基礎教育レベルまでの難民や移民の子どもたちへの、教育資金の提供、教材配布、教員研修、ライフスキル・プログラムの提供などです。

チーム内での役割としては、NGO パートナーとの調整業務、ドナーとの連携や報告書の作成、プロジェクトのモニタリング評価・分析、難民への教育支援を行う他の国連機関や NGO パートナーと定期的に行う教育ワーキング・グループとの連携業務を担当しました。また、2020 年 3 月には、エジプトでも新型コロナ・ウィルスの影響により学校が閉鎖され、プログラムの再構築や、緊急支援物資の配給などの対応も担当しました。

国内研修で国連のプロジェクト・マネジメント方法を学んだおかげで、UNICEF での日々の業務では即戦力として活躍することが出来ています。国内研修の内容は、現場での業務に直接生かすことが出来る非常に実践的なものであったということを、1 年間の海外派遣の全体を通して強く感じました。



4. 海外派遣での感想は？一番印象に残っていることは？

海外派遣中は、一年という短い期間ながら、幅広い業務を担当する事が出来ました。国内研修で知識として学んだ国連のプロジェクトサイクルを、実務として包括的に経験し学ぶ事が出来ました。

印象に残っているのは、担当業務の一つであるプロジェクトのモニタリング評価分析の一環として行ったフィールド訪問で、私たちの活動が、学ぶ楽しさとして子どもたちに実際に届いている場面を目撃したことです。この業務では、エジプトの公立学校や難民の子どもたちのためのコミュニティ・スクールを訪問し、UNICEF エジプト事務所が行う教育支援活動が、現場でどのように実施されているか調査し、報告書にまとめました。フィールド訪問の際は、教員、保護者、子どもたちなど、受益者への聞き取り調査を行い、普段のオフィス業務では聞くことが出来ない、難民、移民のニーズや問題意識、教育機会が阻まれる原因について生の声を聞く事が出来ました。こうした経験を通して、自身の仕事やプロジェクトの意義を感じつつ、プロジェクトをより効果的にするための改善点や、最も脆弱な子どもたちに質の高い教育機会を届けるにはどのような援助や政策が必要かについて、1年間じっくり考察を深めました。

上記のフィールド訪問を通して理解したのは、難民の子どもたちが学校へ行かなくなってしまう要因として、経済的な理由に加え、難民や移民の子どもたちに対する差別やいじめの問題があるということで、それがいかに深刻であるかを知りました。そんなある日、UNICEF エジプト事務所が実施している緊急教育支援プロジェクトで運営しているライフ・スキル・キャンプで、難民、移民、ホスト・コミュニティの子どもたちが、国籍や文化背景を超えて楽しく学んでいる姿を目撃したのです。同キャンプでは、様々な背景の子どもたちが野外の広い空間で、スポーツなどのレクリエーション活動を通し、異文化理解や他者を尊重する態度を身につけます。私が視察を行った際にまさに、最初は国籍別に別れてアクティビティに参加していた子どもたちが、次第に自然と交じり合い、最終的には共に楽しく学び合っている姿を見ることが出来て、この仕事の意義とやりがいを感じました。

5. 今後のキャリア・プランを教えてください。

海外派遣の期間はすでに終了していますが、その後も継続して UNICEF エジプト事務所の教育セクションの緊急教育支援チームに所属し、エジプト内の難民、移民、ホスト・コミュニティの子どもたちへの教育支援プロジェクトを担当しています。今後は JP0 への応募や UNICEF の空席公募などに積極的に応募し、引き続き UNICEF での経験を重ねていきたいと考えています。

私が現在関わっている中東北アフリカ地域では、21 世紀最大の人道危機とも言われるシリア危機及び中東・北アフリカ地域にまたがる数年に渡る紛争により国を追われた、周辺国からの難民・移民の多くの子ども達が支援を必要としています。同地域が大きな危機に瀕するこの時代に、質の高い教育へアクセスが阻まれ取り残されている子どもたちに貢献することは、国際教育開発協力を専門とする私の使命であると考えています。

今後も、国際機関にて最も脆弱な子ども達に対する教育支援に携わり、専門的な知識やスキルを身につけ、平和構築や貧困削減などの国際的課題解決に従事して行く所存です。

6. 事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

国連機関、特に人道支援・開発協力分野でのキャリア構築に関心のある方には是非、本事業への参加をお薦めします。特に以下の二つを得られることが、目標に向かって大きく前進する力となります。

第一に、国内研修を通して得られるネットワークです。講師陣は、平和構築・人道支援・開発協力分野において国内外で活躍される素晴らしい専門家が揃っています。実践的な知識やスキルに加え、キャリア構築に関する様々な示唆を得ることが出来ます。また、同期の参加メンバーや、これまでに本事業に参加された先輩方とのコミュニティの一員となることが出来るのも大きな利点だと言えるでしょう。ここに集った私たちは、これから何年にもわたって厳しい環境で挑戦し続けていくことになります。世界中で活躍する仲間との繋がりがあることは、とても心強い支えとなるはずです。



第二に、海外実務経験を通して得られる、国連の内部システムに関する知見です。国連のプログラムサイクルや、独特な専門用語、コミュニケーション方法などを学ぶことが出来ることは、人道支援・開発協力分野でのキャリア構築を始めようとしている方にとっても、国連機関で長期的なキャリアを構築していく戦略を考えている方にとっても、非常に有益な機会となると思います。

最後に、本事業に参加したことが、私のキャリア・ステップにおいて重要な契機となったことを強調して、筆を置きたいと思います。私は本事業に参加する前は大学教員として約3年間勤務しており、やりがいを持って職務にあたっていました。一方、教育者として経験を積むにつれ、教育開発の専門家として人道支援・開発協力の現場で働きたいという思いが募り、様々な方法を模索している中で本事業の存在を知りました。途上国の現場で日々奮闘していた大学院時代を経て日本の大学で勤務していた私にとって、本事業の5週間の国内研修と1年間の国連ボランティアとしての海外派遣がセットになったプログラム構成は、途上国の現場へ戻るために最高の機会を与えてくれました。これまで信念や情熱を持って経験を築いて来られた方、そこから培った知識やスキルを活用し、この分野でのキャリアを構築されたい方、キャリア転換を考えている方、国連機関におけるキャリアへの挑戦を迷っている方には、是非このプログラムに参加していただききたいと思います。